

【国連と日生連】 第8回

今年二〇一五年までの目標だった「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)」を受けて、次の十五年、二〇三〇年までの「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」が九月二十七日、国連サミットで採択された。

「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」など、「総合的、遠大かつ人間中心な (comprehensive, far-reaching and people-centred) 一連の普遍的で変革的な目標とターゲット」の達成をめざす (目標は十七、ターゲットは百六十九)。「一人も見捨てない (no one will be left behind)」理想をかかげている。

日生連の「生活教育5つの指標」(一九九八年)では、「生活教育が本来国際的なものである」と再確認した上で、「3. 私たちは、国際社会の一体感がつよまる21世紀の教育の基本ともいえる『人間



の尊厳』『平和の希求』『自然と人類の共生』など、地球人類が共に生き続ける思想の獲得を原則とする教育を追求する」とある。ミレニアム開発目標は日生連であまり意識されなかったが、今回の開発目標には〈参加〉していく意識で、まずは生活教育の実践を思い浮かべながら読んでみたい。教科書や学習指導要領を点検する視点にもなるだろう。問題の原因やしくみについて書いていないので、現代版「日本社会の基本問題」につなげるとしたら深い社会分析が必要になってくる。

この九月十九日、「安保法案」が参議院で「採決」された。対案を大きな構えで考え、つくっていききたい。

(研究部・加藤聡一)

参考

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」(目標を含む文書の英語本文と仮訳) は、外務省HP「『持続可能な開発のための2030アジェンダ』を採択する国連サミット」(http://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/Gr/c/page3_001387.html) からPDFファイルで読める。